



▲沿道からもランナーに温かい声援が送られた



新春の開催となったこの「みらいマラソン」には、1200人を超えるランナーが集結。晴れ渡る青空の下、爽やかに駆け抜けました。

すべてのレースのスタート地点は、「みらい」に向かつてまちが活性化することを期待して造られた、供用開始前の新設道路・東楯戸台線。今大会は、その開通イベントも兼ねています。

コースは「みらいの森公園」をメイン会場とし、東楯戸台線から福岡堰を経由し、みらいの森公園をゴールとする10キロのほか、5キロ、3キロ、2キロのコースを設置。参加したランナーの皆さんは、距離・年齢・性別などで18の部門に分かれ、タイムを競い合いました。

また、コース上の給水ポイントでは、当市の特産品であるトマトを配る「給トマト」も実施。ランナーの皆さんからは「甘くておいしい」と好評でした。

大会の目玉の一つ「5キロ特別部門（仮装の部）」には市内外から41人がエントリー。それぞれ趣向を凝らしたコスチュームに身を包み、コースを疾走。沿道からの声援にも笑顔で手を振り、記念撮影にも応じるなど、大会を盛り上げてくれました。

大学の友人同士で参加したという茂木貴宏さん（谷井田）と山本珠愛さん（東村山市）は「卒業の記念にゼミの友人同士で参加した。良い天気の中、新しい道路を走れたので気持ちよかった。沿道からの応援も温かかった」と笑顔で話してくれました。

昔からの友人同士で参加した矢島稚子さん（板橋区）と清水礼子さん（市川市）は「ツイッターで今大会を知り、申し込んだ。開通前の道路を走れたのでうれしかった」と話してくれました。

陽光台小学校に通う奥山航大さんと横張太一さん（ともに4年）は、3〜4年生の2キロの部に参加。5位に入賞した奥山さんは「自分より早い人が多かった。もっと練習して他の人に勝ちたい」と話し、横張くんは「次に出るときは6位入賞を目指して頑張る」とそれぞれ次回への意気込みを語ってくれました。

今大会では、一般から募集した市民の皆さんや、日頃から市政運営にご協力いただいている各団体の皆さんに、ボランティアとしてスタッフに加わっていただき、大会の円滑な運営にご協力いただきました。